

# 名古屋ひき逃げ 同乗3人処分保留

# 遺族「耐えられぬ」

## 娘は宝物だった ありがとうの言葉最後に 殺された

名古屋市内で2月、歩行者3人が死亡したひき逃げ事件。乗用車に乗ったブラジル人4人が危険運転致死容疑で逮捕されたが、名古屋地検は運転したロシア・ファブリシオ被告(26)のみを同罪で起訴、同乗の3人を処分保留とした。「納得できない」。遺族はやり切れない胸の内を明かした。



歩行者3人が死亡したひき逃げ事件で、ロシア・ファブリシオ被告(中央)を立ち合わせ行われた実況見分＝2月17日、名古屋市熱田区

## 危険運転 致死容疑 立証には高い壁

### 胸の内

「娘は仕事を掛け持ちし、一生懸命、今後の人生設計をしていた。宝物のような存在だった」

死亡した三輪真理子さん(29)への思いを、

父良一郎さん(62)は静かに語った。三輪さんはパチンコ店で勤務を終えて帰宅途中、事件に巻き込まれた。1人暮らしの三輪さんはその前日、久々に実家に顔を出した。車で駅まで送った良一郎さんが別れ際「仕事がんばれや」と声を掛け、返ってきた「ありがとう」が最後の言葉となった。

「娘が殺されたことが苦しくて悔しい」。

声を振り絞る良一郎さん。「同乗者の誰かが(暴走を)止めれば、違った結果だったかもしれない。納得できない」と同乗者3人も危険運転致死罪で起訴されることを望む。

ただ、不起訴を不服とし検察審査会に申し立てるかとの問いには「また初めから事件を思い出すのには耐えられない」と顔をゆがめ首を振った。

### 車内の会話

愛知県警は事件から4日後、ファブリシオ被告を逮捕。「赤信号を無視して行け」と(同乗者に)指示された」と供述したことから、同乗の3人も暴走を働き掛け、当時追跡されていたパトカーから逃走する意思も共有していたとし、同容疑で逮捕に踏み切った。

だがその後の調べで、ブラジル人4人の供述は食い違いが明らかにになり、暴走行為をめぐって4人が車内で交わした会話を立証できなくなった。

交通事故に詳しい高山俊吉弁護士は「同乗

**3人死「ひき逃げ」** 名古屋市内熱田区の交差点で2月1日午前0時55分ごろ、歩道に乗用車が突っ込み、信号待ちの男女3人をね死亡させた。パトカーに追跡された盗難車。時速約120キロで走行していたとみられる。愛知県警は車に乗ったブラジル人の男4人を危険運転致死容疑で逮捕。運転者は同罪で起訴されたが、3人は3月5日までに処分保留となった。

者を起訴するには、4人全員が運命共同体のように統一された意思を持って信号無視したことを立証する必要があり、ハードルは高い」と指摘した。